

[成果情報名]年内収穫が可能な極早生エンバク「たちいぶき」

[要約]秋冬飼料作物である極早生エンバクの「たちいぶき」は、年内収穫が可能で、鹿児島県奨励品種の「スーパーハヤテ隼」と比較して、耐病性は同程度に優れ、乾物収量は106%と多収である。生産費が7%減少することから、自給飼料の増産とともに生産コストの低減が期待できる。

[キーワード]草地飼料、エンバク、極早生、年内収穫

[担当]鹿児島県農業開発総合センター畜産試験場・企画環境飼料部・草地飼料研究室

[代表連絡先]chikushikika@pref.kagoshima.lg.jp

[分類]普及成果情報

[背景・ねらい]

鹿児島県においてエンバクは、極早生品種の単播やイタリアンライグラスと混播利用されており、作付面積は約3,745ha（麦類混播含む）である（市町村別畜産統計書：2025年7月、鹿児島県農政部畜産振興課）。

現在、本県におけるエンバクの県奨励品種は、「スーパーハヤテ隼（以下、「隼」）」（1998年選定）と「スナイパー」（2023年選定）のみである。近年、耐病性や収量性に優れた品種が育成されており、「たちいぶき」について本県での適応性を調査する。

[成果の内容・特徴]

1. 「たちいぶき」の耐病性は、「隼」と同程度で強い（表1）。
2. 「たちいぶき」の乾物収量は、「隼」と比較して、106%と多収である（表1）。
3. 「たちいぶき」の出穂始は、「隼」より10日程度遅れるが、9月中旬に播種することで年内収穫が可能となる（図1）。
4. 「たちいぶき」の生産費（円/乾物kg）は「隼」と比較して、乾物収量が多いため7%減となる（図3）。
5. 「たちいぶき」は、耐病性及び収量性に優れ、年内収穫で安定的な収量が見込めることから、生産コスト低減及び自給飼料の安定確保が期待できる。

[普及のための参考情報]

1. 普及対象：肉用牛農家、乳用牛農家
2. 普及予定地域：鹿児島県内一円
3. その他
 - 1) 当調査は、県飼料作物栽培基準に準じて、県畜産試験場の飼料畑（火山灰土壌）で実施したものであり、施肥量（kg/10a）は、牛ふん主体堆肥2,000、苦土石灰100、化学肥料を基肥としてN:8、P₂O₅:15、K₂O:10を施用した。また、栽植様式は条間30cmの条播き、播種量は7kg/10aである。
 - 2) エンバクは、生育初期において雑草と競合するため、栽培基準に準じて雑草防除を行う。
 - 3) エンバクは、刈り取りが遅れると倒伏しやすいため、乳熟期に収穫する。
 - 4) 生産費（円/乾物kg）については、種子代を実勢価格で算出し、材料費、労働費、固定費については、農林水産省畜産物生産費統計（2017、2018年度）に基づき、その合計を乾物収量で除して算出した。

[具体的データ]

表1 「たちいぶき」の栽培特性 (2021~2023年度、試験地：鹿児島県畜産試験場)

品種	播種日 (月/日) ³⁾	発芽 良否 ¹⁾	初期 生育 ¹⁾	出穂始 (月/日) ³⁾	収穫日 (月/日) ³⁾	刈取時 出穂程度	刈取時 熟期
たちいぶき	9/18	8.0	7.7	11/18	12/10	4.1 **	乳熟期
隼 ²⁾	9/18	8.0	6.9	11/7	12/10	6.7	乳熟期

表1 つづき

品種	草丈 (cm) ⁴⁾	倒伏 程度 ¹⁾⁴⁾	病虫害 程度 ¹⁾⁴⁾	生草収量 (kg/10a)	乾物率 (%)	乾物収量 (kg/10a)	穂重割合 (%)	乾物収量の 対奨励比 (%)
たちいぶき	130 **	3.4	1.0	4,937 *	17.8	874.8	10.8 *	106
隼 ²⁾	139	5.2	1.0	4,516	18.3	824.6	18.1	100

注1) 発芽良否・初期生育：1（極不良）～9（極良）、出穂程度：1（無）～9（極多）

倒伏程度・病虫害程度：1（無または極微）～9（甚）

2) エンバクの県奨励品種

3) 播種日：9/13～9/21，出穂始：「隼」11/1～11/16，「たちいぶき」11/12～11/29，
収穫日：11/24～12/21

4) 原則として，収穫日前日に調査

5) *：P<0.05、**：P<0.01（t-test）

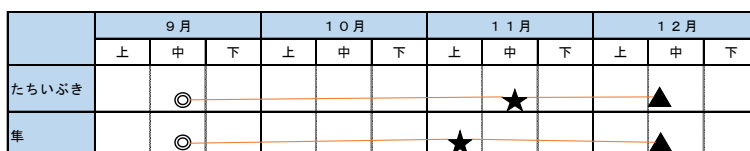


図1 本試験の作型 注) ◎：播種、★：出穂始、▲：収穫

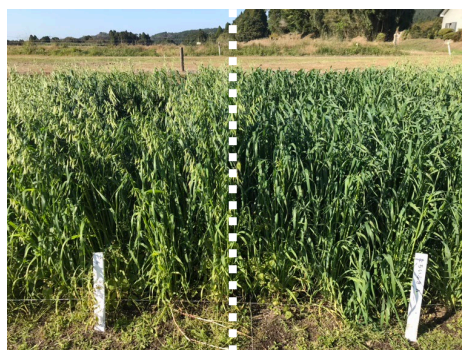


図2 「たちいぶき」の生育状況

注) 撮影：2023年11月20日、播種後66日
左「隼」、右「たちいぶき」

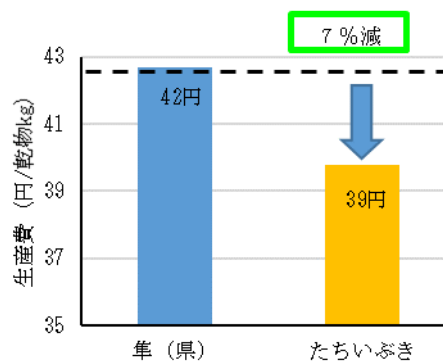


図3 生産費の比較

注) 調製前（収穫時）までの生産費（材料費、労働費、固定費）は、農林水産省畜産物生産費統計（2017、2018年度）をもとに算出
(鹿児島県農業開発総合センター畜産試験場)

[その他]

予算区分：県単、受託（飼料作物等高能力新品種選定調査事業）

研究期間：2021～2023年度

研究担当者：永野健太、青田拓哉、内村涼子（鹿児島県畜産振興課）、田中翔太郎（鹿児島県鹿児島中央家畜保健衛生所）、加治佐修（鹿児島県立農業大学校）、新牛込純治

発表論文等：

「たちいぶき」は、鹿児島県農作物奨励品種選定審査会（2025年03月25日開催）で、飼料作物奨励品種に選定された。